

基本目標5 生物多様性の保全



① 自然環境の保全と創出

生物多様性を保全するために、様々な自然環境を保護する必要があります。水辺については、市民が自然とふれあう場を創出し、多種多様な生物種の保全に努めます。都市の緑については、まちなかの環境を高める緑を増やし、公園緑地などの緑の質を改善し高めていくことに取り組みます。森林や農地については、気候変動の緩和や健全な水循環の確保などの多面的な機能を維持できるように保全に努めます。

② 自然との共生

自然環境に関するデータの収集や小牧山など自然とふれあう場と機会の充実に努め、環境保全への関心を深めるとともに、生物多様性の保全への理解を促進します。

環境テーマ	指標	基準値 平成30年度	目指す方向	進捗状況			達成
				令和4年度	令和5年度	令和6年度	
① 自然環境の保全と創出	市民一人あたりの都市公園面積	7.5 m ² /人	↗	7.7 m ² /人	7.7 m ² /人	8.0 m ² /人	☀
	緑被面積	2,759.9ha	↗	2,704.3 ha	2,704.3 ha	2,704.3 ha	☂
	市民菜園の利用者数	153 人	↗	175 人	198 人	177 人	☀
	耕作放棄地の面積	62ha	↘	65ha	65ha	65ha	☂
② 自然との共生	自然環境学習(水生生物調査など)の実施校数	10 校	↗	7 校	13 校	13 校	☀

風致の優れた地域の保全

①自然環境の保全と創出

【 施策説明 】

風致の優れた環境を活かした地域を保全し、市民が自然風景に親しむ場として提供する。

●取組・実績

- ・太良まめなしの里の北側ゾーンを整備し、3/30 に全面供用を開始した。
- ・マメナシの花の観察会を 3/30 に開催し、72 人が参加した。



(太良まめなしの里)

外来種の駆除

①自然環境の保全と創出

【 施策説明 】

外来種の駆除を実施し、農作物の被害の減少や外来種問題に関する啓発を行う。

●取組・実績

- ・スクミリンゴガイ（ジャンボタニシ）の駆除を実施した（シルバー人材センター委託）。
- ・ヌートリア、アライグマ等の捕獲、駆除を実施した（猟友会）。
- ・市民からの依頼により、捕獲檻を設置した。
- ・オオキンケイギクの駆除を市内 1 中学校と 2 回実施した（自然環境観察人）。



(中学校とのオオキンケイギク駆除の様子)

水生生物調査

②自然との共生

【 施策説明 】

市内小学生による水生生物調査及び勉強会を実施し、生活排水の問題や河川生物の生息環境について、学ぶ機会を提供する。

●取組・実績

市内 3 校で水生生物調査を実施し、児童 269 人が参加した（米野小学校（7/4、145 人）、大城小学校（10/11、35 人）、小牧原小学校（10/24、89 人））。市内 2 校で勉強会を実施し、児童 93 人が参加した（光ヶ丘小学校（6/21、52 人）、篠岡小学校（7/8、41 人））。



(水生生物調査の様子)

その他の取組

テーマ	事業	内容
と創出 ①自然環境の保全	緑化推進協議会の充実	緑化運動を促進し、緑化意識の高揚を図る。 ➢ 年 3 回花いっぱい運動を実施した。 ➢ 出生記念樹を 455 名に配布した。
	身近な公園緑地の整備	公園の計画的な整備と適正な管理を進める。 ➢ 公園 1 カ所（宮前）を整備した。 ➢ 児童遊園 1 カ所（入鹿）を改修した。

テーマ	事業	内容
① 自然環境の保全と創出	優良農用地の保全	新たな農業の担い手を確保し、優良農用地の維持保全を進める。 ➤ 認定農業者 1 名を認定した。 ➤ 農業用樋門の 6 基の取替等を行った。
	遊休農地、耕作放棄地の防止・解消	遊休農地、耕作放棄地の増加を抑制し、農地として保全するための現況調査等を行う。 ➤ 農業委員会の農地パトロール調査により、遊休農地の早期発見、状況把握を行った（令和 6 年 8 月～10 月）。
	市民菜園事業、農業体験事業による農業とのふれあい	市民に農業へ関心を持ってもらえるよう、農業とのふれあいの場を設ける。 ➤ 市民菜園を開設し、農作業の場を提供した。 ➤ 農業体験講座を開催した（20 名受講）。
	農業祭の開催	生産者と消費者のふれあい、地元農産物の紹介とともに、農業に対する関心と理解を深めることを目的として農業祭を開催する。 ➤ 小牧駅東及び西で開催した（11/16、17）。 ➤ 農産物の品評会及び即売会を 3 回開催した（7 月、8 月、11 月）。
② 自然との共生	兒の森の活用促進	自然環境保護に関する啓蒙を図る。 ➤ 兒の森里山自然体験を実施した（全 6 回、30 人受講）（再掲）。 ➤ 兒の森クイズラリーを実施した（10/6、9 家族受講）（再掲）。 ➤ 毎月 1 回自然環境観察人による定期観察会を実施した（延べ 107 人参加）。
	自然環境学習	小学生のうちから自然に興味を持ってもらい、環境保全に対する意識の醸成を図るため、身近な自然の観察会を実施する。 ➤ 市内 8 校の児童クラブで実施した。 （村中 7/31 18 人、小牧南 8/7 27 人、小牧原 8/9 32 人、味岡 12/24 21 人、一色 3/25 20 人、桃ヶ丘 3/26 49 人、陶 3/27 24 人、三ツ淵 3/28 19 人参加）

評価

市民一人あたりの都市公園面積は増加し、公園緑地の整備により身近に自然とふれあう場と機会の提供の充実につながっている。市民菜園の利用者数は基準値よりも増加しているものの、前年度と比較して減少していることから、農業への関心と理解を深め農地の保全につなげていくことが重要である。

自然環境学習など様々な自然とふれあう場と機会を提供しているところだが、より多くの市民に生物多様性の大切さや外来種がもたらす影響などを広く周知し、環境保全活動につなげる必要がある。